

守山まるごと活性化 議事要旨

作成者: 臼井

会議名: 令和元年度 第4回守山学区まるごと活性化プラン A プロジェクト会議

日時: 令和元年 10 月 26 日(土) 午前 10 時から

場所: 守山会館1階 和室

出席者: 井上代表、和田副代表、竹村、脇、五次、杉本 (守山会館)川上、臼井

(市社協)小島、里内 (福祉協力員)三野

(市)すこやか生活課 池田、百田 (健康推進員)竹内、櫻井、山藤

議題

1. 自治会の課題解決に向けた検討
2. わがまちミーティングについて

会議要旨

内容

1. 自治会の課題解決に向けた検討

(1) 健康推進員

- 制度の趣旨、活動内容等について、市すこやか生活課より資料に沿って説明
- 現推進員より活動状況等について
 - ・私の自治会は推進員の人数が年々減っており、辞めるに辞められない状況。また、学区の理事や協議会の会計など役員のなり手もない。役員は経験年数をもとに選出するので、2～3年毎に交代する自治会の推進員からは選びにくい。
 - ・個人的には楽しく活動している。守山学区は、理事が段取りさえすれば他の推進員はみな進んで動いてくれる。ただ、その段取りの部分が大変なのは確か。そのため、役員になりそうな年数になったら退任する方もいるのは事実。例えば、理事経験者がもっとフォローするなどして、現理事の負担を減らすことが必要。
 - ・いち推進員だと負担感はあまりないが、学区の理事になるとやることが多く、仕事を持っていたら務まらない。

●意見交換

(井上代表より)

- ・学区理事の負担が重そうだが、その点について市担当課はどう考えているのか。
→(すこやか生活課)県の会議への出席や、学区活動の段取りなどご苦労いただいている。それらをどのように軽減できるかについて、あり方検討会でご協議いただいている。市も協力できる部分はさせていただき、自治会にもご協力をお願いする部分もあるかと思う。

(PJ 委員より)

- ・「役員になると大変」ということが知れ渡っている。そんな状態になっていることへの対策をとらないといけない。また、最近は60歳を過ぎても働いている方は多く、頼みに行っても断られてしまう。時代に合わせて変えていかなければならない。例えば私の自治会では、今ま

で夏祭りや老人会の調理を手伝ってくれていたが、それは本来の仕事ではないので外すようにした。議論ばかりでなくそのような方策を打っていかなければならない。

- ・市は自治会に対して、健康に関する取組の実施を要求しているのか。

→(すこ生課) そのように要求しているわけではない。推進員が情報提供等を行う場として、自治会のサロン等を活用させていただきたいと考えている。

- ・だが実際には、各自治会では「健康推進員の活動の為に、年〇回▲▲の事業を実施しないといけない」という認識になっているため、推進員の仕事量が減らないのではないかと。自治会と推進員を紐づけさせている市の仕組み(自治会推薦制度など)のせいで、自治会と推進員が密接になり過ぎており、それが「推進員の為に自治会が何かを企画する」という誤った認識を生んだり、自治会が推進員にごみ拾いへ参加させたりする原因になっていると思う。
- ・講習を受けて、しっかりしたスキルを身に付けているのに待遇が悪すぎるのではないかと。またそのスキルが活かしていないのではないかと。

(井上代表より)

- ・健康推進員の趣旨が、自治会長も含め市民に十分に理解されていない。そのため、誤った認識に対して疑問に思うことすら無く、そのまま続いてしまっている。根本的なところから理解を深めなければならない。
- ・以前は地域社会に婦人会等の組織があり、その中で自然と健康推進員が選ばれるような風土があった。しかし今はそのようなことはもう無いということをみんなが気づき、対策を取らなければならない。
- ・以前は奉仕が当然だったが、今の社会はそうではない。現実に見合った形に改善しなければならない。
- ・「理事になりたくないで辞める」という方がいるのは非常にもったいない。健康推進員に限らず、本来大事なものは地域での草の根の活動であるのに、市や学区の事業が加わることで負担が増してしまっている。

(和田副代表より)

- ・「健康推進員はしたいが、理事になりそうなので辞める」という方がいたが、そういうことが無くなるようにしていただきたい。
- ・県との関係についても、負担軽減のために見直していただきたい。

(2)福祉協力員

●制度の趣旨、活動内容等について、市社協より資料に沿って説明

●現協力員より活動状況等について

- ・自治会活動を知ることができてよかった。
- ・サロン開催は大変ではあるが、地域の方々のつながりの大切さを感じられた。
- ・後任がなかなか見つからず、何年もやっている方も多い。
- ・主な活動としては、友愛訪問を年2～3回(民生委員と)、自治会でサロンを年6回
- ・学区社協の部会長は自治会の輪番で選出している。

●意見交換

(PJ 委員より)

- ・私の自治会では、福祉協力員は役員に入れているが、民生・児童委員や健康推進員はそうではないので、自治会長が個別にお願いに回っては断られるという状況になっている。
- ・引き受けてくれた方によって活動状況も違ってくる。熱心な方が続けてくれるような仕組みづくりを市や社協で考えてほしい。

(井上代表より)

- ・課題に対する対策は何かとっているのか。
- (市社協)今年度より、7学区の代表者が集う会議を設置し、そこで検討している。そこで出た課題としては、自治会の夏祭り等に役員として駆り出されるのが大変といったことが挙がっている。

(PJ 委員より)

- ・自治会によって状況は様々であるので、一律な制度は考え直すべき。
- ・ふれ合いや絆など、不測の事態に対する地域づくりが不足しているならば、「強制避難訓練」を年1回程度行うべきではないか。横の繋がりのお話しさえ持てない状況ならば、1泊かけて訓練を行えば、危機管理等の面も含めて色んな効果がある。市はそうした思い切った対策が必要。
- ・興味のない自治会、興味のない場所に人は集まらない。
- ・私の自治会では、一度すべての活動をリセットして一から考え直そうと思っている。
- ・健康推進員も含め、私の自治会は、自治会活動の負担は少ないが、学区や市関係の事業の負担感によって、断られることが多い。

(井上代表)

- ・福祉協力員で言うと、サロン活動や見守り活動等を自分のやり方・ペースでできるなら負担は少ないが、現実には会議や研修会等が付随して負担になり、大変というイメージになっている。自治会長も、本来の制度の趣旨は考えず、とにかく誰かを選ばなければという意識になっている。

(現健康推進員より)

- ・役をやる方が限られている。一つ任期が終わっても、また別の委員を頼まれたりする。新しい人材を発掘する必要がある。

(和田副代表)

- ・現委員さんからも「やっていて楽しい」ということを日ごろから地域の人に伝えていただけるとありがたい。

(PJ 委員より)

- ・民生・児童委員の活動は、自治会員以外も対象になっているが、福祉協力員や健康推進員の活動がそれに引っ張られてしまって仕事が増えているのではないか。
 - ・各委員の間で上下関係があるのではないか。
- (すこやか生活課)対象が似ているので、市としてはうまく連携して動いていただきたいという思いはある。

(井上代表)

- ・これまで聞かせていただいたことを踏まえて、解決に向け何を実践すればよいかを考えていきたい。

2. わがまちミーティング

●テーマの事務局案(4案)を提示

【意見等】

- ・それぞれの案に良い点があるので、どれかに絞るのではなく、うまく良いとこどりしてテーマを決てはどうか。
 - ・過去4回の内容について、簡単に紹介する形でもいいので、触れられるようにしたい。
 - ・話し合うことで地域のネットワークを作ることが成果だと思う。これまでの経過も踏まえながら、その成果に向けて具体的に踏み込んでどうか。
- (和田副代表)ミーティングで何か成果を求めるのではなく、参加者が話し合いを通して前向きな考えをもってくれることが大事で、回を重ねることでそういう方を増やせる。そういう意味では、ミーティングで話し合ってもらえたこと自体が一つの成果だと思う。

※会議後に龍谷大学と調整し、今年度の開催日は2月11日(火・祝)に決定

決定事項	・前回と今回で聞いた内容を踏まえ対策を検討する ・わがまちミーティングのテーマは、4案をもとに龍谷大と協議する。 ・次回会議 11月30日(土)午前10時から
次回以降について	・課題解決に向けた対策の検討 ・わがまちミーティングのテーマの検討